

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案		日時	令和元年12月11日(水) 第5校時, 第6校時
単元名	地域の防災リーダーになるために 【本題材で育成しようとする能力…主体性】	学年・組 人数	第1学年 男子26名 女子25名 計51名
指導者	村上恭子, 安井 盛一, 山田裕華 (外部講師: 尾道市総務課職員)	場所	体育館

1 単元観

本単元では、自分や自分の住む地域に住む人々の命を守るためにはどうすればよいかを考えていく中で、地域での防災の在り方について知り、「自助」「共助」「公助」について考え、中学生の自分たちに何ができるかを模索し、行動する生き方を探究していく。災害時の避難経路を考えることは、社会科における地図を読む学習に、防災グッズや生活の中での防災について考えることは、家庭科における「災害への備え」の学習に繋げることができる。このように、本単元は他教科と相互に関連させながら授業を展開していくのに適した内容である。また、防災に携わる方の話を聞く活動から、彼らがどんな思いを持って地域を守ろうとしているかを学び、地域の中での自分たちの役割や、今後、地域のためにどう行動すべきか等、自己の生き方を考えさせることにもつなげることができる単元である。

2 生徒観

生徒は昨年度、西日本豪雨災害の体験があり、地域の避難場所を知っている人数の割合は高い。しかし、安全に避難する経路や地震の際の避難場所を正確に知っている生徒の割合は低い。また、半数以上の生徒が、自分の家に隣接する家庭については知っているが、同じ地区の中にどのような人が暮らしている人か分からないと回答した。さらに、因島の航空写真を見て、自分の家の位置を明確に示すことができる生徒は、全体の約5分の1程度である。以上のことから、本学級の生徒の課題は以下の3点である。

- (1) 自宅や自分自身の位置を因島や地域の上空から鳥瞰してとらえる見方や考え方が身につけていないので、写真や地図を見ても現在地を特定するまでに時間がかかる。
- (2) 防災に関する一定の知識は持っているが、それを自分の命を守るために活用しようとする意識が十分に高まっていないので、これまでに経験した以外の災害に備えるための知識獲得が不十分なままになっている。
- (3) 「共助」の必要性は理解しているが、地域の弱者を自分が助けようとする意識の高まりが不十分であるので、自分の地域に住む年少者や高齢者等に対する関心が弱く、主体的に「共助」に関わっていくことが期待できない状態にある。

3 指導観

本単元を通して、西日本豪雨での自身の体験をもとに、危険な箇所や避難場所、避難経路などを確認する中で自分たちの住んでいる地域を見つめ直し、災害時に自分たちは、どのような行動をとるべきか考えさせていきたい。

そのため、まず、自分の家を地域の上空から鳥瞰する力を付けさせるために、自分の家の周辺の地図を描いて災害が起こりうる危険箇所を記入させる。そして、尾道市が作成しているハザードマップと比較させ、危険箇所を明確に把握させたい。

次に、尾道市総務課職員による出前授業(講話)を行い、南海トラフ等の地震に関する正確な知識を身につけさせたい。さらに、地震に伴う避難所に関する調査を行ったりHUG(避難所運営ゲーム)を行ったりすることにより、「自助」の考えだけでなく、災害を乗り越えるためには「共助」の考え方や行動が必要であることを体験的に学び取らせたい。そして、こうした体験を通して、災害時に自ら地域を守るために行動しようとする意識を高めていきたい。

4 単元構想

めざす姿 災害時に自分自身の身を守るとともに、地域を守るためにできることを考え、実践しようとするすることができる。

目標	単元の課題 災害時に自分たちは、どのような行動をとるべきか考え、自己の命を守るとともに、他者や地域全体を大事にしようとする生き方とはどのようなものかを考える。				
	学習課題	生徒の学習活動	評価規準	教科等との関連	
単元の構成 生かす振り返る 探究する 伝え合うまとめる 探究する つかむ	○「いのちの学習」のまとめをする。	・自らの役割、地域での役割を確認し、自己の生き方について考える。	・社会の中に生きる一員として、自分に何ができるかを考え、行動している。	・道徳（11月）『娘のふるさと』地域社会の一員としての自覚をもち、郷土を愛し、その発展に努めようとする道徳的実践意欲を培う。	
	○演習 HUG を行う。	・自分たちの命を守るとともに、近所の小さい子やお年寄りの人達と共に避難するためにはどうすればよいか、考える。	・設定した課題から自己の生き方を考え、意欲的に行動している。	・学校行事（11月）認定こども園との防災訓練	
	○情報収集2（避難所にある物や人について） ○情報収集1（避難所とは）	・インターネットや図書、新聞、雑誌等の文献及びフィールドワーク等による現地調査から情報収集を行う。	・課題解決に向けて収集した情報から、必要な情報を取捨選択している。	・「自分たちを取り巻く地域を守るために自分たちに何ができるか」という課題の解決に向けて、仲間と協働して課題を追究している。	・社会（3月）『日本の姿』地図から、有用な情報を適切に選択して、読み取り図表などにまとめる。
	○年少者を守る避難の仕方を考える。 ○防災講話「地震による災害」	・これまで起こった地震や今後地震が起きる可能性等、正確な事実やデータ等により知識を深める。	・知らなかった知識を整理するためにメモを残そうとしている。	・保健体育（6月）『救急救命講習』～応急処置・AEDの使い方～	・総合的な学習の時間（1学期）『海洋教育』課題解決に向けて、計画的かつ見通しを持って探究活動ができる。
	○市の防災マップと比較する。	・避難経路や活用できる公共施設などを色分けして、災害時に自分たちがどの経路を通って避難すればよいか、地図に書き込む。	・自分の考えやグループの考えをもとに、設定した課題を解決しようとしている。	・家庭科（1月～2月）『災害への備え』災害への備えの必要性がわかり、住まいや地域における工夫を考えることができる。	・国語科（5月）『わかりやすく説明しよう』説明する観点を決めて情報を整理し、わかりやすく説明する。
○西日本豪雨や自身の体験をもとに災害時の状況を振り返る。	・地区ごとに情報を持ち寄り情報の取捨選択をする。	・課題に対して興味関心を持ち、習得している知識を活用して、学習課題を設定している。			

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にどのように避難すればいいか知りたいと思っている。 ・一人でいるときに避難することができるだろうかと不安を感じている。 ・災害時にどこにどうやって避難したらよいか知りたいと思っている。 ・地域のお年寄りの方などと一緒に避難して助けたいという気持ちを持っている。 ・自分の生まれ育った地域で、人々の役に立ちたいという気持ちを持っている。
-------	---

5 学習の展開

本時の目標：HUG による避難所運営の演習をとおして、避難してくる人たちが不安にならないように自ら積極的に考えたり意見を述べたり行動したりしようとする事ができる。

	学習内容	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
導入 15分	1. 学習課題への意識づけ ○これまでの学習の流れをふりかえる【全体】	◇前時の学習を振り返る。 ◇地震が発生する可能性や避難所に関する調査等、前時まで行ってきた学習を想起させる。	
学習のめあて 力を合わせて避難所を運営してみよう！			
	2. 本時の学習内容 ○本時のめあてを確認する。	◇司会進行は、外部講師（尾道市総務課職員）と交代する。	
展開 70分	3. HUG の説明【一斉】 ○用紙やカード等をもとに演習の見通しを持つ。 4. HUG の実施【グループ別】 ・避難者の特徴を確認する。 ・適切な避難場所を話し合っ て決める。 ・イベント情報を掲示板に記入する。 5. 演習内容の交流【一斉】	◇グループごとのテーブルと準備物 ・避難所見取り図 ・避難者・イベントカード ・掲示用ボード ◇避難者の状況、人数等を確認しようとしているか観察し、対応方法自体が理解できていない場合は助言する。 ◇避難所の運営は生徒の協働によって遂行させるよう、不必要な助言は加えないようにする。 ◆用語が難しい場合は、説明を加える。 ◇活動を振り返り、「スペースの確保」「いろいろな出来事への対応」「要配慮者への対応」の点から振り返らせる。 ◇体育館内の区分けと教室の活用方法について、自班と他班を比較させ、避難所運営において大切にすべき見方や考え方を広げさせる。	○素早かつ確かな判断をするために、積極的に避難所運営に関わり、課題を解決しようとしている。
15分	6. 本時の振り返り	◇避難所を運営するにあたり、大切なものは何か、体験を通して感じたことや考えたことを振り返らせる。	ワークシート

準備物

卓球台8台、ホワイトシート14枚、マーカーペン14セット、PC、プロジェクタ、スクリーンマイク（ワイヤレス）2本、長机1、椅子3脚

6 教師の話し合いのデザイン

